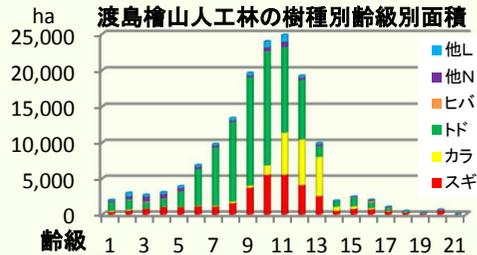


低コストで効率的な施業の普及に向けて

檜山森林管理署

【現状・課題・目的】

渡島・檜山地域では、拡大造林により植栽された人工林が伐採適期を迎えており、今後主伐再造林が大幅に増加することが確実である。一方、造林作業を行う担い手不足も深刻となってきたり、造林コストの低減・造林作業の省力化が重要な課題となっている。



【これまでの取り組みや成果】

造林の低コスト化を進めるため、苗木生産者や地域林業関係者を対象にコンテナ苗を活用した現地検討会を開催する等、コンテナ苗普及に向けた取り組みを行ってきた結果、コンテナ苗の植栽が市町村森林整備計画に組み込まれる等一定の成果が現れている。

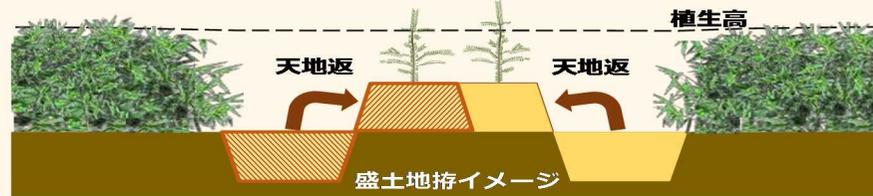
また、低コストで効率的な列状間伐の普及のため、地域に対し現地検討会を開催する等の周知を進めたことにより、民有林での列状間伐実績率の向上が図られた。

【平成30年度の取組結果】

①造林コストの低減に向けた取組

下刈作業の省略を目的とした、新たな地拵方法である「盛土地拵」、天然力を活用し植付の省略を目的とした「地表処理」の実施箇所において、現地検討会を開催し、国有林が試行的に取り組んでいる低コスト造林の情報発信を行った。

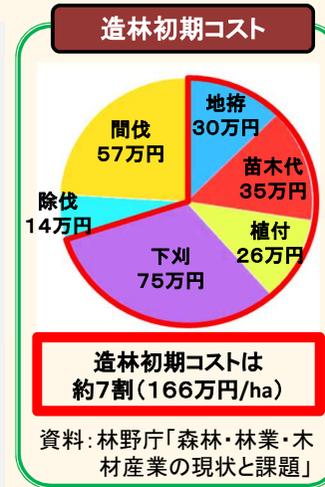
「盛土地拵」は、下刈経費75万円/haの全額削減、さらには植栽本数を低密度とすることにより、造林初期コストの5割以上の削減が見込め、「地表処理」では、苗木代と植付経費の合計61万円/haの削減が見込めるものと試算しており、これらを実践することで、コストの削減と同時に、作業の省力化を図ることができる。



※盛土地拵とは、バックホウにより林地の土壌を農地の畝のように盛り上げ、高い位置に植栽することにより植生の影響を最小限に抑え、下刈の省略を目指す地拵方法です。

②コンテナ苗の普及に向けた取組

コンテナ苗を活用した造林の普及促進のため、コンテナ苗植栽地での生長調査を実施し、データの蓄積・分析等を行った。また、コンテナ苗生産者へ、コンテナ苗の現状・今後の生産見通し等の聞き取りを行うなどの情報収集を行った。



現地検討会の開催状況



コンテナ苗生産現場

【今後の取組で目指すところ】

- 造林コストの低減に向けた積極的な取組及び検討・導入へのサポート
- 「盛土地拵」等の箇所において、データの収集・検証の継続
- コンテナ苗の生長調査結果や導入のメリットを紹介し、民有林への普及



盛土地拵生長量調査

【今後の目標】

造林コスト低減に向けた取組により、更新未済地の減少、年間新植率の向上を図る。